

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2372800215
法人名	社会福祉法人 長寿会
事業所名	グループホーム みどり
訪問調査日	平成 19 年 5 月 1 日
評価確定日	平成 19 年 5 月 15 日
評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2372800215		
法人名	社会福祉法人 長寿会		
事業所名	グループホーム みどり		
所在地 (電話番号)	愛知県碧南市油漕町3丁目50番地 (電話) 0566-48-7111		
評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中区鶴舞3-8-10 愛知労働文化センター3F		
訪問調査日	平成19年5月1日	評価確定日	平成19年5月15日

【情報提供票より】(平成19年4月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成11年10月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	6 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 7.5

(2) 建物概要

建物形態	併設 / 単独	新築 / 改築
建物構造	木造造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	35,000 円(食材費含む)
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5		要支援2			
年齢	平均 89.1 歳	最低	82 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	にしばたクリニック 碧南市民病院 碧南歯科医師会
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ログハウス風の外観・内装、吹き抜けのエントランスをはじめとした広々とした室内空間は、リゾート地のペンションの趣がある。身体的自立を対象とした設計で、居室部分の2階フロアへの昇降には階段を利用している。上りやすい高さ・幅の階段を工夫し、日常生活の中での身体機能維持の運動に一役買っているようである。中で暮らす利用者・職員は明るく楽しげで、食事時間以外でも共有空間であるリビングに集い、気の合った利用者同士が集まって歓談し、職員が話しかけると、時折歓声をあげ、大声で笑いあう場面もあった。「その人らしさ」支援は継続されており、その成果が利用者の様子から感じ取る事のできるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価では、具体的な運営理念策定、方針・目標の決定を改善課題として提案したが、ホームは、今回評価までに見事に課題を解決され、ホーム理念・方針・目標を職員間で周知し、日々の介護に活かすべく、積極的な取り組みを継続している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は自己評価・外部評価の意義をよく理解し、積極的に取り組んでいる。自己評価での振り返り評価を実施し、結果をミーティングで話し合い、検証を行なっている。改善課題・問題点は職員全員で討議・協議し、改善に努めている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	ホームの活動報告・活動予定報告が主な議題となっている。質疑応答ではホームに対する質問も増え、意見交換も行われるようになってきている。家族の意向の把握、希望・要望の聴き取り、行政との情報交換等は直接的にホーム運営・方針に反映する事が多く、会議を活かした取り組みにつなげている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	ホームと家族の良好な関係は確立されており、相互の信頼関係も容易にうかがい知ることができる。家族意見・要望・希望は、主に来訪時に直接の聴き取りが行なわれており、適切な対応が行なわれている。聴き取られた内容は職員間で周知し、運営・方針に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	大型施設併設で、ホームの立地が施設内である事から、一般家庭のように地域とのつきあいがしづらい面も納得できるが、利用者の生活の継続を考え、「今までの生活」の継続支援をお願いするところである。地域コミュニティの参加・運営推進委員会等、地域との関りは順調に進捗していると思われる。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者は、理念を明文化し、玄関・リビングに掲示している。利用者本位の理念は、ホームの介護方針の基本となっている。しかし、地域密着型サービスとしての理念策定までには至っていない。		利用者がホームで生活し、地域の一員として暮らし続けることを視野に入れた、地域密着型サービス事業所としての理念策定が望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関・リビングへの掲示、ミーティングでの周知等、介護方針の共有を図り、日々の介護に活かしている。		職員と管理者の信頼関係は厚く、共に理念実践に向けての積極的な取り組みがある。地域密着型サービスとしての理念策定も含め、更なる取り組み努力に期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のコミュニティへの参加・運営推進委員会・グループホーム協会西三河地区相談委員会の活用等、地域・家族とのネットワーク形成に努めている。		利用者の生活の継続を考え、「今までの生活」の継続支援をお願いするところである。大型施設併設で、ホームの立地が施設内である事から、一般家庭のように地域とのつきあいがしづらい面も納得できるが、今後もできる限りの取り組み・働きかけをお願いしたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は自己評価・外部評価の意義をよく理解し、積極的に取り組んでいる。自己評価での振り返り評価・外部評価結果を活かし、ミーティングで問題点・課題を導き出し、具体的な改善につなげている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの事業報告はじめ、活動報告・活動予定報告を行い、グループホーム理解への活動は順調であると思われる。また、意見交換も活発に行われており、行政・地域・利用者家族の意見・要望・意向の把握に努め、サービス提供に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への参加は得られているが、それ以外の機会はむづかしい状況が否めない。		管理者は行政とのより良い関係作りの必要性を感じており、今後の働きかけに期待が持てる。行政との協働、随時の情報収集はホームにとっても望ましい事であり、積極的な取り組みが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族への報告は、主に利用者の状態変化等に行われている。必要時には連絡を密に取り、家族との連携を図っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現時点で、家族からホームへの苦情はあがっていない。家族アンケートの実施等の取り組みもあり、家族の意見の聞き取りに対する積極的な姿勢が感じられた。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職・移動は少なく、継続的な安定したサービス提供が可能となっており、利用者が日々安心して過ごせるように支援している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、定期的な外部研修受講・参加の機会作りに努めている。職員希望での外部研修・内部研修への参加もみられ、職員の知識・技術等のスキルアップにつなげている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、2・3ヶ月に1回の西三河地区相談委員会にて意見交換を図っている。知り得た情報をホームの運営・方針に反映させるべく、ホーム内での検討・実施を実践している。		意見交換に留まらず、ネットワークを活かした職員研修・勉強会等のサービスの質の向上につながる活動・働きかけへの発展に期待するところである。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>1日体験利用を最低でも1回は行っていただき、ホームの雰囲気・利用者との関わりを本人に体験していただいている。本人・家族ともに不安がない支援を目指し、ケアマネとも連携しながら、本人・家族の納得の行くまで話し合いを行なっている。希望があれば1泊体験利用も可能である。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>ホームの雰囲気はまさに共同生活の場であり、利用者との職員の信頼関係の上での穏やかな生活が感じ取れる。楽しげな笑い声、苦労も思い出の身の上話、好きなテレビ番組の話等々を手仕事をしながら歓談する場面が見られた。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常生活の中で利用者の希望・要望・意向の聴き取りを実践している。また、利用者の癖・生活習慣の把握・理解にも努め、本人本位の暮らしを支援している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>職員意見の聞き取りは日常的に行われ、申し送りも随時行っている。また、月1回のケアカンファレンスにて職員全体の意見交換を図り、利用者本位のケアへの支援に努めている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>月1回のケアカンファレンスの後、介護計画の「再評価・処遇変更票」にて見直しを行っており、利用者の変化に合わせた介護計画となるように取り組んでいる。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	老人福祉施設併設であり、自立支援を目指すホームでの生活が困難になった場合も、施設内で柔軟な移行・対応が可能である。その他、身体状況の急変時も施設内で24時間体制の適切な対応が行なわれ、利用者・家族の安心となっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医の理解・協力が得られ、適切な医療受診の支援が行われている。協力医とホームの関係は良好であり、利用者の特性・性格にも配慮した支援が可能となっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者本人・家族の意向を把握し、入居前に十分な話し合いが行なわれている。ホームの構造上、入居対象はあくまでも『自立』であり、方針の徹底・共有は入居時から行なわれている。職員間でも方針の共有は図られており、重度化予防の支援を実践している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の声かけは丁寧かつ優しい雰囲気有しており、現時点で問題は感じられない。また、利用者の記録等、プライバシーに関しては、保管棚に目隠しをし、目に触れない工夫がなされている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活としての大まかな日課は決まっているが、できる限り利用者に合わせて支援に努めている。昼食時も利用者一人ひとり違う食事のペースに合わせて、声かけ・下膳を行っている姿があった。また、外出希望等の利用者個人対応にもできる限り対応しており、ホームの積極的な支援が感じられた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームでは偏食への個別対応を行っており、食事がどの利用者にとっても楽しみであるように配慮をしている。ふきん・タオルだたみ、配膳・下膳等、利用者の体調・気分留意しながら声かけを行い、楽しく・にぎやかな雰囲気ですべての食事時間を楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員のシフトで、入浴時間帯は昼食後からと定まってはいるものの、入浴は毎日可能であり、入浴時間も本人の希望と合わせながらゆったりとくつろいでいただけるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎週、ボランティアの先生を招いての習字・お花・お茶の『教室』あり、利用者の楽しみごととなっている。玄関ホールには『先生』の手で朱墨で がつけられた利用者が書いた習字が掲示され、習字の得意な利用者同士の張り合いとなっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年2・3回のホームでの外出はあるものの、利用者一人ひとりの外出要望すべてにこたえることは難しくなっている。そのためホームでは園内を散歩する等の取り組みを行なっている。		外出の好き嫌い、行事の好き嫌い等、利用者毎に合わせた支援の難しさを理解するところではあるが、管理者・職員は『個別対応』への意識が高く、今後の支援に大いに期待が持てる。施設内散歩、戸外ウッドデッキでの日向ぼっこ等、可能な範囲での積極的な日常支援からお願いしたい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの前には車通りの激しい道路があり、利用者の安全面を配慮し、家族への説明を十分に行い、同意を得た上で玄関の施錠を行なっている。職員も方針を周知しており、利用者の外出傾向・外出希望を把握し、適切な対応で施錠の弊害を予防している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	元消防署長の法人職員の協力で、実践的な避難訓練を行い、利用者・家族・職員の不安要素の軽減に努めている。夜間では職員が一人ということもあり、隣接する同法人の施設職員との協力体制をとっている。		緊急災害時は、利用者に対し、災害時・災害後の柔軟な適切な対応が必要になることから、家族・地域の方の協力を得られるよう、地域推進会議の検討課題としていただく事を提案したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月1回の体重測定で食事量の調節を行い、利用者の健康管理に努めている。水分摂取量に関しても、日常生活の中で把握を行い、状態に合わせた摂取をいただいている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングを始め、玄関・廊下は、花・掲示物等で季節感のあるさりげない飾りつけがなされ、利用者・来訪者の目を楽しませている。訪問当日も音の大きさ・光の強さに対して問題は感じられず、空調も快適であり、利用者にとっての住み心地の良い環境作りへの配慮が充分に感じられた。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、家族の理解・協力を得て、利用者の馴染みの物・好みの物が持ち込まれている。利用者が不安を感じることなく安心して生活できるように、家具の配置・部屋の片付けにも配慮し、居心地の良い生活空間作りの支援をしている。		